

《提言要旨》『KANSAI フードプラットフォーム』～「食」を軸としてビジネスが発展するとともに人々が集まる地域をめざして～

I. 関西活性化への現状認識

世界と比較した日本の課題 ～少子高齢化と国際競争力～

- ・世界は人口増加の一途を辿っている中、日本は2050年には約40%が65歳以上となる
- ・国際的な競争力（労働生産性）は主要先進国の中では低い水準であると言わざるを得ない（労働生産性の国際比較：日本はOECD加盟諸国36カ国中21位）

関西が抱える課題 ～労働人口減少と開業率～

- ・「子供が生まれない」、「若者が外（関西から東京圏等）に出ていく」という状態が続いている（合計特殊出生率は全国平均以下で関東に次いで低水準、加えて東京圏・大都市への流出）
- ・ベンチャーキャピタル数では全国比およそ10%前後であり、新規・追加投資金額の地域分布においても約75%の資金が東京圏へ集中（関西での出資による調達が困難）
- 成長環境が厳しく、新しい産業が生まれにくい土壌であるといえる

III. 関西のアセットと事業機会

関西のアセット ～「食」にフォーカス～

■「食」こそが、競争力に優れ、かつ人々が身近に感じることのできるアセット

- ヌネスコ無形文化遺産に登録された **日本が世界に誇れる文化（和食）＝食** に注目

- ～背景～
- ① 関西はかつて天下の台所と呼ばれた大坂をはじめ、食文化において歴史的な蓄積が大きい
- ② 世界的なグルメネットワーク「デリス（Delice）」に神戸市が加盟したり、大阪商工会議所と（公財）大阪観光局が、共同で「食創造都市 大阪推進機構」を設置するなど、関西の食の魅力を国内外へ発信する動きが活発化
- ③ 関西を訪れるインバウンド観光客にとって体験したいことの上位が「食」であり関心度が高い

※更に万博やIRが起爆剤となり、「食」関連ビジネスの注目および裾野拡大のチャンス

事業機会 ～「食」関連ビジネスと市場～

- ・今後フードテック（Food Tech）市場規模は世界で700兆円に上る可能性あり
- ・代替肉やパーソナライズドフード、フードデリバリーサービスの急速な発展（UBER EATSなど）
- ・国内食関連産業においても、飲食関連の国内最終消費額は昭和50年代から平成20年代で約1.5倍（約50兆円 → 約80兆円）に成長

II. 我々が定義する関西活性化

活性化のあるべき姿 ～定義～

「既存事業同士が新たに結合・発展し、新規ビジネスが持続的に創出されることにより、ヒト・モノ・カネが循環する状態」

- 関西の資源・資産を活かしたニーズとシーズのマッチング、サステナビリティの向上による経済の好循環の実現こそが関西の活性化のあるべき姿と定義した

活性化の現状把握 ～近年の取組～

- ・関西ベンチャーサポーターズ会議による情報発信や機関連携
- ・大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアムの設立
- 取組の成果により、近年開業率は上昇傾向（機運の高まり）

関西がとるべきポジション ～世界の成功例から～

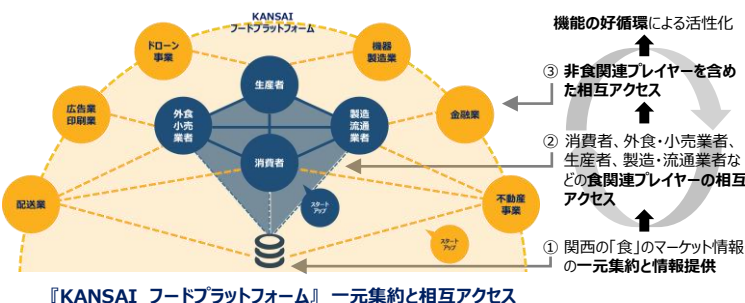
- ・今この機運にのっていき事が人・技術・資金・情報をつなぐグローバルなイノベーション創出の原動力となる
- ・「どれだけ多くの人に興味・関心を見出してもらい、人々が集まってくるか」が大きなポイント

- ・世界で成功とされる事例を調査した結果、各地で様々な特色＝「アセット」があることに注目
- ex① シリコンバレーはITに特化（サンフランシスコ周辺は群を抜いてIT系スタートアップ多い）
- ex② ロンドンでは金融に特化（フィンテックによる革新的なサービス・ベンチャー企業登場）
- 世界の成功事例からも分かるように、日本、ひいては関西の強み・特長を明確に感じる事ができ、かつそれを求めて人が集まるような、「**関西独自のアセット**」に特化すべき

IV. 関西活性化のための提言と背景

提言

『KANSAI フードプラットフォームの構築とその好機能循環により、「食」を軸としてビジネスが発展するとともに、人々が集まってくる地域をめざす』



提言の背景 ～関西の課題～

- ・関西の「食」に関する情報は、インターネットで検索を行っても情報サイトが有用な情報を提供しているものの、**それぞれに独立**しており、関西の「食」を知ることや情報の持っている価値を最大限に活用できていない可能性がある

- ・「食」に関するプレイヤー（消費者や生産者、製造・流通業者、外食・小売業者、その他多くの「食」関連事業者）は売上拡大、生産性向上、人材確保など様々な課題を抱えているが、課題解決のために**相互に繋がる仕組みが十分でない**

→ 「食」に関する情報を最大限有効に活用し、**各プレイヤー間の新たな繋がりを創出するプラットフォームが必要**

V. 『KANSAI フードプラットフォーム』の創設

KANSAI フードプラットフォームが有する機能

【3つの機能】

① Portal（「食」のポータルサイト機能）

- ・各分野で取り扱うデータをベースに、「食」に関するデータを**一元集約**化し、提供する公共・民間各団体と連携した直結リンク集
- ・既存グルメサイトやSNS等のマーケット情報、自治体統計データや気象データ等のオープンデータの**一元集約**化によるマーケティングデータの提供
- ワンストップで「欲しい情報」に素早くたどり着ける玄関口の提供

② Community（「食」のコミュニティ機能）

- ・悩み、質問・相談等の共有掲示板など、各プレイヤー間の**相互アクセス**による課題解決にむけた有益な交流の場（コミュニティベース）の提供
- ・上記を基にした相談会や事業者間交流会、お祭りや試食会などの住民参加型イベント等、リアルイベントの開催
- **各プレイヤー間におけるバーチャル&リアルコミュニティの形成**

③ Matching（「食」のマッチング機能）

- ・生産者から消費者までの関係強化や既存商品の消費拡大等にとどまらず、異なる分野間の**相互アクセス**による新たなマッチング等、多角的なプレイヤーの結び付け
- **オープンイノベーションによる新事業創出の支援・促進**

KANSAI フードプラットフォームが実現するバリュー

- ① **生産者** にとっての新たなバリュー …… ex) 農家×Tech
- ② **製造・流通業者** にとっての新たなバリュー …… ex) 需要予測
- ③ **外食・小売業者** にとっての新たなバリュー …… ex) 外食産業×シェアキッチン
- ④ **消費者** にとってのバリュー …… ex) ニーズに合わせた豊かな食生活
- ⑤ **非食関連産業** にとってのバリュー …… ex) 「食」産業とのコラボレーション



KANSAI フードプラットフォームの将来構想

STEP 1 ビジネスの発展・「食」関係人口の拡大

STEP 2 大規模プロジェクト（万博・IR等）を通じた情報拡充&活用

STEP 3 他分野との連携・展開

